

人が少しずつ重なって暮らしていけるような社会

～えん監事退任にあたって～

NPO 法人ハンズオン埼玉 西川正

17年前、2002年のサッカーワールドカップでの日本戦が行われているその最中に、夜な夜な、当時のスタッフ、役員 みなさんに、NPO法の説明をさせていただいたことを昨日のことにように思い出します。それ以来のご縁でした。

ほとんど何もしてこなかったのが、心苦しい限りです。とはいえ、監事が活躍する場面は、組織にとっては危機的な状況を示しますので、その意味で、これまで、えんはともすばらしい運営をしてこられたということになります (^)/。理事、スタッフ、ボランティア、そして利用者みなさんが、それぞれの立場で、また、同じまちに住む人として、努力を積み重ねてこられた結果です。

1998年に制定されたNPO法は「市民の自由な社会貢献活動を推進する」ことをめざし、市民が地域でさまざまな活動・事業を団体として展開していけるように法人格を付与することを目的とした法律でした。まさに、えんのような組織がたくさんこの日本の社会に生まれてほしいということをお願いしてつくられたものです。(日本社会全体の実態は、厳しいものがありますが)

数年前の総会でお聞きした事業の報告が印象に残っています。まどかのスタッフの方の報告でした。「隣接する住宅の方から『小学校に入った子どもに、親が居ないときに何かあったら、“まどか”に行くのよ、と言ってあるのでよろしく』と声をかけられた。近隣との関係を大切にしてきたことが少し実ってきたようで、たいへんうれしかった」「近隣の子どもたちが、鍵をもってなくて家に入れないうちなど、まどかに来て、お年寄りと折り紙をしていたりします」。事業規模が数億円になった今も、えんのみなさんが何を目指しているのか、何を喜びと感じているのか、胸にしっくりと落ちました。

現代はシステムで動く社会で、意識しなければ、人が人とかかわることはできません。便利になればなるほど、システムが整えば整うほど、人は孤立していきます。ケアという営みを基盤にしつつ、日常的に人が少しずつ重なって暮らしていけるようにしていかなければ、人々の幸せはこないと思います。その新しい暮らしづくりの、最先端の試みが、えんのみなさんの日々の活動なのだと思います。

教えていただくことばかりの17年でした。ありがとうございました。えんのますますの発展と、えんにかかわるみなさんのこれからの幸せを祈っています。またご縁がありましたら一緒させていただけたらと思います。

追記: 焼いも、ぜひまた今年もよろしくおねがいたします。お芋お送りしますので!

(「ヤキイモタイム」は西川さんが理事をされているハンズオン埼玉の呼びかけで始まりました)